

# 令和2年度 特色ある道徳教育推進校(心の教育推進キャンペーン実施校)

## 習志野市立香澄小学校

### 研究主題

より良い生き方を目指した道徳科の授業  
～自他と対話することで考えを深める道徳科の指導方法の工夫～

取組1 道徳科の授業で「他と対話することで考えを深め、より良い生き方を見つけていこうとする子」を目指した授業実践を図る。

### 工夫1 発問の工夫

#### <主発問>

- 児童の考えを深めさせる場面で用いる発問

例:「わたしはこれからどうすればよいと思いますか。」

#### <切り返し・問い返しの発問> (児童の考えを深めさせる・一人の考えを全体で共有する)

- 児童の発言を共有する発問

例:「二人の関係は、どんな関係だろうか。」

- 異なった視点をもたせる発問

例:「わたしは、どうして試されているような気がしたのだろう。周りの人と話してみよう。」

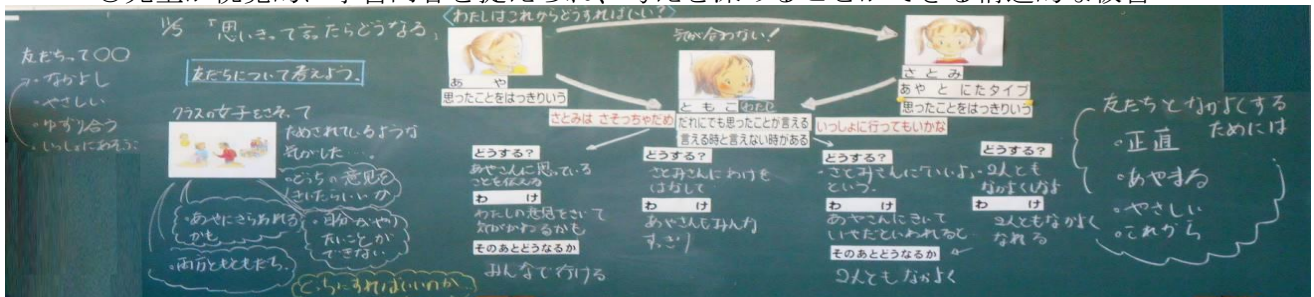
#### <振り返りの発問>

- 終末の場面で、自分の考えを整理するための発問

例:「友達と笑顔になっていくためには、何が必要だろうか。」

### 工夫2 板書の工夫

- 児童が視覚的に学習内容を捉えられ、考えを深めることができる構造的な板書



### 工夫3 話し合いの場の工夫

- 体験的な学習場面の工夫 (体験を通して実感を伴う理解につなげるエンカウンター、役割演技等)
- 問題解決的な学習場面の工夫
- その他の工夫

- ・ウェビング (児童の様々な視点を視覚化する)
- ・スケール表 (自己決定の場を設定して自他と考えの違いを明確化する)

※教材文の内容によってよりよい場面の工夫を選択する必要がある。

取組2 道徳科の実践を広く保護者や地域の方が参観できる機会を設ける。

令和元年6月8日(土)・10月10日(木)・令和2年2月21日(金)に保護者や地域の方が道徳科の学習を参観する公開授業を実施した。



6年生 自分の意見をまとめる



5年生 保護者の方と一緒に話し合う



1年生 友達の意見を聞き合う

## ＜参観した方の意見＞

- もう5年生で、親子で考えを言い合うことが最近では少なかったが、子供の班の中に入って一緒に話ができて楽しかった。(5年生保護者)
- 1年生は春より落ち着きが出てきた。6年生は最上級生らしさが見られた。全般的に真面目に授業を受けていると見受けられた。(地域の方)

### 主な成果と課題

- 自他と対話をしながら考えを深めさせていくために必要なことがはっきりしてきた。
- 実感を伴った道徳的価値の理解を促し自分事として考えを深めさせる授業づくりができてきた。
- 保護者・地域の方に道徳の授業を参観いただく機会を通して、心の育ちの大切さを共有できた。
- 丁寧な教材分析に基づいた「課題」設定、発問(主・切り返し)の言葉の精選・吟味が必要である。

## 授業実践事例

### 小学校 第3学年 道徳科学習指導案

令和元年11月5日(火)

- 1 主題名 相手の立場を考えるとということ B(9)(友情、信頼)(県の視点「支え合う喜び」)
- 2 教材名 「思いきって言ったらどうなるの？」(「ゆたかな心 道徳3年」光文書院)
- 3 主題設定の理由

#### (1) 教材について

学習指導要領では、友情・信頼を「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと」とし、3・4年生については、「友達と仲よくすることだけでなく、相手のことを互いに理解した上で、信頼し、助け合うことが求められる」と書かれている。3年生の本クラスの児童は、活動範囲が広がる一方で、気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向がある。集団での活動などがこれまでになく盛んになるものの、自分の利害にこだわることで、友達とトラブルを引き起こすことも増えてくる。そういった経験をもとに「友情、信頼」という道徳的価値の醸成を図る。

この教材は、実際の児童の生活によくある一場面を切り取って扱っている。登場人物は「わたし(ともこ)」「あや」「さとみ」の3人である。あやからの「公民館のフェスティバルにみんなで行こう」というポジティブな提案と「さとみは誘わないでほしい」というネガティブな提案を出される。わたしは思い悩む。葛藤していると、さとみから「わたしも一緒に行ってもいいか」という提案が出されるという話である。

授業では、「わたし」の2つの選択肢について状況設定を丁寧に分析し明示し、それをもとに問題解決的な学習を展開していく。その際に児童に意識させたい事として、この教材のもう1つの視点である友達同士(わたしとあや)で世界を共有する一方で、他の価値観(みんなで仲良くしたいというわたしも持っている思い)がぶつかり合っていることである。この2つの事柄をどう調整することがよりよい友達関係を構築していくかのカギとなる。

また、教材の内容を自分事として捉え、実はよりよい友達関係を築くということ、思っているほど簡単ではないということについても気付かせていきたい。



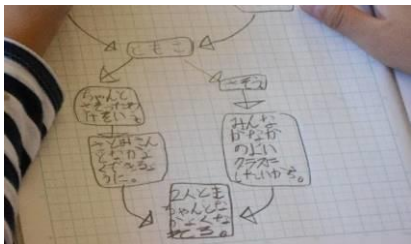
#### 4 重点について

- ・発問の工夫
- ・板書の工夫
- ・話し合いの場の工夫

#### 5 本時の指導

ねらい 友情を成立させるためには、自分が相手に信頼される行動をとる必要があるが、2人より一致しない要望を出された場合には、それぞれの立場から信頼される行動とは何かを考えるという判断力を養う。

展開

学習活動	発問 (○) と児童の反応 (・)	指導上の留意点、実践の様子、☆評価
<p>1 「友達って○○」この○○に入る言葉について考える。</p> <p>2 教材内容を確認し、登場人物の関係を確認する。</p>  <p>3 わたしが試されているような気がした理由について、全体の発表→ペアトーク→全体発表という順で発表する。</p> <p>4 相手の立場で考えて行動する大切さについて理解を深める。</p>	<p>○「友達って○○」この○○に入る言葉はどんなものがあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なかよし</li> <li>・一緒にあそぶ</li> </ul> <p>○今日は「友達」について考えます。</p> <p>○登場人物はどんな人たちだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『わたし』はみんなで行った方がいいのに」と思った。</li> <li>・わたしは「だれにでも思ったことが言える」と思っていたけど、実は言えなかった。</li> <li>・こういう時が自分もあった。</li> </ul> <p>○わたしはどうして試されているような気がしたのだろうか。周りの人と話してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人の意見に迷っていて、どっちの方に答えればいいのかということで迷っている。</li> <li>・さとみさんによいと言ったら、あやさんに嫌われるし、あやさんによいと言ったらさとみさんに嫌われる。</li> </ul> <p>○二人の関係は、どんな関係だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気が合わない関係。</li> <li>・さとみさんがあやさんのことをどう思っているかわからない。</li> </ul> <p>◎わたしはこれからどうすればよいと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わたし」の意見を聞いて気が変わるかもしれない。</li> <li>・あやさんの考えが変われば、みんなで行くことができる。</li> <li>・いいよとさとみさんに言ってあげる。</li> <li>・みんなで行った方が楽しいから、二人とも仲良くしなよと言う。</li> <li>・あやさんもさとみさんも悪いところがあるから、最初に話し合う。</li> </ul>	<p>【発問】</p> <p>「友達って○○」と問うことで、導入からの友達に対する意識の変化を視覚で捉えさせようとねらった。</p> <p>【話し合いの場】</p> <p>ペアトークをさせることで、ペアトーク以前よりも挙手数が増え、自分の考えに自信を持つことができた。</p>  <p>【板書】</p> <p>児童の発言内容を整理して板書することで、登場人物の関係性を丁寧に確認し、全体で共有することができた。</p> <p>【展開の仕方の工夫】</p> <p>問題解決型の学習を取り入れることで、自分自身の行動について考えることができた。</p>  <p>自分の考えを図式化して、問題に対する解決策を整理した。</p>

5 今日の学習を振り返る。	<p>○友達と笑顔になっていくためには何が必要だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見をちゃんという。</li> <li>・正直に伝える。</li> <li>・あやさんがさとみさんに謝ると良いと思う。</li> </ul>	<p>【話し合いの場】</p> <p>ハンドサインを使い、発表児童と自分の意見との相違点を意識して伝えようとする児童が見られた。他者との対話ができていると言える。</p>
	<p>○今日学習したことについて振り返ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とわかり合えるようにしていくことが大切だと思った。</li> <li>・どうしたらよいか、友達同士で話し合うことが大切だと思う。</li> </ul>	<p>【発問】</p> <p>「笑顔になるために何が必要か」を問い、話し合わせることで、本時の目指す道徳的価値に迫ることをねらった。児童は「やさしさ」以外にも複数の価値を挙げ、考えを深めることができたといえる。</p> <p>☆友情、信頼について、自分との関わりで多面的・多角的に考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの場をもうけることで自分のこととして捉えたり、これからの自分について考えたりすることができた。</li> </ul>

児童の考え A児の記述（道徳ノートより）

①「友達と笑顔になっていくためにはどうすればよいか」という発問に対する記述

わ	た	し	は	<u>正直</u>	と	き	う	か	と	<u>おもいや</u>	20				
<u>り</u>	と	<u>やさしさ</u>	が	あ	れ	ば	い	い	と	お	も	い			
ま	す	。	わ	け	は	、	あ	や	と	さ	と	み	で	も	う

② 振り返り 「今日、学習して考えたこと」に対する記述

わ	た	し	は	<u>正直</u>	と	き	う	か	と	<u>おもいや</u>	20				
<u>り</u>	と	<u>やさしさ</u>	が	あ	れ	ば	い	い	と	お	も	い			
ま	す	。	わ	け	は	、	あ	や	と	さ	と	み	で	も	う

わ	た	し	は	<u>正直</u>	と	き	う	か	と	<u>おもいや</u>	20				
<u>り</u>	と	<u>やさしさ</u>	が	あ	れ	ば	い	い	と	お	も	い			
ま	す	。	わ	け	は	、	あ	や	と	さ	と	み	で	も	う

教材と自分が経験したことと結びつけて考えることができた。うまくいかなかったことも踏まえて、この後どうすることが必要かを考えることができた。

授業実践についてのまとめ

- 全教員で教材分析を何度も行った。そのことにより、児童の考えを深めることができる発問の吟味や児童の思考を促す板書の工夫、話し合いの場をどのように組み入れていくのかを含めた学習展開の工夫が重要であることを共有して、授業実践を積み重ねることができた。
- 一人一人の児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子をどのように評価していったらよいのかについて更に実践を積み重ねていきたい。